

南スーダン和平プロセスの課題と支援 ～TICAD7を前にアフリカの平和作りを考える～

自衛隊撤退から2年以上が経過し日本での報道は減っていますが、和平プロセスは今まさに正念場を迎えており、現地では日本の様々なアクターによる支援も行われています。

7月9日に独立8周年を迎える南スーダン。人々が安心して暮らせる国になるために、現地ではどのような支援が必要なのでしょう。また、日本はどのような役割を果たさうのでしょうか。

本シンポジウムでは、今春ジュバを訪問し閣僚や反政府グループへの聞き取りを行った東教授、現地で支援活動を続けてきたNGO「日本国際ボランティアセンター（JVC）」の今井代表理事による南スーダンの状況についての報告をもとに、今後の支援のあり方について参加者の皆様と議論したいと思います。

日時 2019年7月12日(金)19:05～21:30

会場 上智大学国際会議場(2号館17階2-172)

参加費 無料(どなたでも参加可能)



日本の支援によるジュバのFreedom Bridge建設現場(2019年3月、東教授撮影)

プログラム

◆冒頭挨拶：紀谷 昌彦 大使

(外務省中東アフリカ局アフリカ部・国際協力局参事官
アフリカ開発会議(TICAD)担当大使、NGO担当大使)

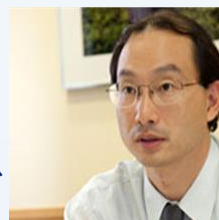
前駐南スーダン特命全権大使。1987年外務省入省後、本省での国連、国際平和協力、防衛省関連部署や、欧米・アフリカ・アジアの在外大使館を経て現職。



◆基調講演1：東 大作 教授

(上智大学人間の安全保障研究所、国際関係研究所所員、
国際協力人材育成センター副所長)

今年2月～3月にかけて南スーダンを訪問。外務大臣の委嘱による公務派遣として首都ジュバに滞在し、ジュバ大学で講演をしつつ、第一副大統領、複数の閣僚、南スーダン国連特別代表、反政府グループの幹部に面会。南スーダン和平合意の実施プロセスにおける課題を探った。



◆基調講演2：今井 高樹 氏

(日本国際ボランティアセンター(JVC)代表理事)

南スーダン独立前から支援を続け、2016年以降も9回にわたりジュバに入って人道支援などを継続。和平合意の背景や現地の人びとの声、日本の支援の課題について、これまでの経験に基づき報告する。



モデレーター：並木 麻衣

(JVC 広報・ファンドレイジンググループ マネージャー)

※なるべく質疑応答の時間を長くとり、8月に日本で開催される第7回アフリカ開発会議(TICAD7)も見据えて、これからの日本の南スーダンやアフリカ全体の平和作り支援について議論したいと思います。

主催：上智大学 人間の安全保障研究所／後援：(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)

後援：上智大学国際関係研究所, NGO "Japan Global Dialogue"

お問い合わせ：上智大学 人間の安全保障研究所

Email: sihs-ofc@sophia.ac.jp

URL: <http://dept.sophia.ac.jp/is/sihs/>

